

生成AI活用、どこまで任せて大丈夫？

社内で安心して活用を広げるためのセキュリティ・コンプライアンス研修



判断の型を持てば、安心して使える範囲が広がります。

新しいAIや使い方が出てきたときに、自社で判断するための型を持ち帰ります。

こんな方へ

- 生成AIの推進とルール整備を、同時に任されている
- 社内から「これはAIに入れてよい？」と聞かれる
- ルールを整備しても、新しい使い方が出るたびに判断に迷う

少人数（5名程度）から実施できます。

判断の背骨になる4つの問い

- 1 何をAIに入れるか
- 2 どこまでAIに読ませるか
- 3 出力を何に使うか
- 4 どこまでAIに任せるか

当日の流れ

- ・資料を読ませる、予定を動かすなど、生成AI活用の広がりをライブデモで紹介
- ・自社の業務に置き換えながら、入力・確認・承認のポイントを整理

ケースワーク

同じAI出力でも、「社内の叩き台」から「社外への配布物」へ用途が変わると、何の確認が必要になるかを考えます。

90～150分／対面・オンライン

研修で扱う3つのフレーム

- | | |
|---------|-----------------|
| 何を守るか | CIA：機密性・完全性・可用性 |
| どこで起きるか | 入力 → 処理 → 出力 |
| どう守るか | 技術・法規制・人／組織 |

扱うテーマ

- ・個人情報・機密情報・著作物を、どの環境でどう扱うか
- ・AIの回答をどこまで信用し、何を確認するか
- ・個人利用と、組織で管理された利用環境の違い
- ・AIに権限を与え、仕事を動かすときの確認と承認

個人情報・著作権・利用規約など、利用時に確認しておきたい基本的な論点にも触れます。

持ち帰れるもの

- 自社で確認すべき項目のリスト
- AIに任せてよい範囲の判断軸
- 社内ルールで最初に決めること

講師



岡実 オカピー・パートナーズ 代表

中小企業診断士／認定経営革新等支援機関／生成AIリスク管理者検定／生成AI導入実務者検定

オムロンで34年間勤務した後、産業制御システムのセキュリティ普及啓発に従事。生成AIとセキュリティの双方を、現場で判断しやすい言葉に翻訳して伝えています。商工会議所・協同組合等を中心に、直近1年間で10回以上の生成AIセミナー・研修に登壇。

研修から、その先へ

生成AI活用を組織で進めるための論点整理や仕組みづくりを、状況に応じて個別に支援します。